⑯　和歌山県の坊守さん

【親の念願・親の遺訓】　　２５２頁

和歌山に特別布教に行ったとき、次の会処まで参詣された若い坊守さんがおられた。依頼されて著書を全部送った。三年後に招待されて行った。

住職が駅まで見送って、私は坊守に負けました。

何事ですか。

愧かしいから言われません。

それなら負けましたなんて言わなくてもよいですのに。

貴殿から書物を送って貰って朝に晩に読み続け、泣いてばかりいるから色に狂うたかと思って、泣くような信仰ならやめて仕舞えと怒りましたら、平生は静かな坊守が、今日だけは口答えさして下さい。何でも言え、貴殿は県庁に出ておられる。父が言われるのに、特別布教に来る方は大抵大酒のみじゃが、今度のように夜中まで信仰の話をされたことはない。お父さん明日も参らして下さい。参りなさいまいりなさい。私は門徒の方が寺に来られたとき、世間話で帰らしては聖人様や仏様に申訳がない。私が早く開発しなければ指導することができないと思って、必死で求道しているのです。貴方は私が大阪、神戸、彦根に参詣するのを色恋で歩いていると思われるのではありませんか。それなら私は自殺しますが、後生の一大事ですから、解決するまで見逃がして置いて下さいませんか。勝手にせえ、と言いましたが、相変わらずぎゅうぎゅう求めていました。父の三年の法事をするので計画を立て、第一の総代が了解すれば、他の四人も納得するから、一人を訪ねましたら、御院家さん貴殿はいくら出されますか、住職の法事は門徒がするものと決まっているから、私は出さない。住職の法事は門徒がしますが、父の法事は子供がされるのが当然でしょう。只今、陛下から倹約せよと詔勅が出ていますが、練塀も全部塗り替える必要

はありません。坊ちゃん嬢ちゃんが大きいから畳建具も破損してはないのに、全部修繕するとは無謀ではありませんか、私は不賛成です。

私が考えて見ようと帰ったら、坊守がいかがでしたか、総代の奴は訳の判らぬ奴じゃ。何と言われましたか。こんなに言ったよ。よく判った方ですね。馬鹿お前は総代の味方をするのか。話の筋が通っているではありませんか。法事はやめたやめた。やめることはいりませんよ、考え直したらよいでしょうと言ったが、一週間ぐらい後に県庁から帰って見ると、練塀も建具も畳もどんどん職人が来てやっているので驚いて、おいどうしたかい、すみません、お父さんの三年の法事は私の一生涯に再びありませんから私に全部出さして下さい。お前はヘソクリをしていたのかい。いいえ、戦争が激しくなると紋付も装身具もいらない、モンペイがあれば生活出来ます。私の実家が呉服屋ですから、貴殿に買って頂いた以外の物はみな質屋に取って貰いましたら、箪笥は空っぽになりましたがすみません。

これは驚いた。その晩総代の家に行って、法事の件は取消すことにする。法事をしないのですか。法事はする、一部始終を話したら、御院家さんそれは本当ですか。本当よう、行って見なさい。御院家さん悪い事を申しました。私が頑張ったばかりに坊守さんを裸体にしましたが、許して下さい。質屋に電話して一枚も売ることはならないぞ、すぐに引取るから。坊守さんの着物で畳や建具を修繕さして門徒がどうして平気で座れましょうかい。今晩他の四人の総代を私が集めます。総代の皆さん坊守さんは自分の着物を売って三年の法事をなさる、勿体ない事だ、私がこれだけ出すから総代はこれだけ支出しておくれ。寄付に歩くのに御院家が来られては都合が悪い、自分達だけで歩いて、費用の倍以上の集金ができて、御法礼まで集まっていますから、法座の上り物は全部残ったのでございますが、信仰の徳と言うものは偉いものですね。坊守に完全に負けました。世の中の坊守にこんな真似ができましょうか。

【聖訓】　177頁

和歌山県のある寺の坊守が父の三年の法事に住職が予算を立て筆頭総代に相談した。ご院家あなたはいくら出されますか、前住職の法事は門徒がする規定じゃ、それはわかっていますが、あなたのお父さんの法事ですよ、私は予算に入れていない、今は激戦中です、陛下から勅令が出ています、寺の修繕や畳の表替えは遠慮さしていただきましょうと否決。

坊守が総代さんはどんなに言われましたか、総代の奴は訳のわからん奴じゃ、こんなに言った。それは訳がよくわかっていますなあ、馬鹿お前までが総代の味方をするのか、私は正しい方に味方します。十日位後に県庁（吏員として勤めている）から帰って見ると、襖屋、畳屋もきている、左官も来て練塀の修繕を始めている。坊守に何をしているのだ、坊守は平気で、大沼和上さんが特別布教に来られた時、父に相談して次の会処まで参詣さしていただきました、大抵の布教師は大酒飲むが、信仰の話で夜明かしをしたのは初めてだ、坊守に信仰がなければいけないから熱心に聞けよと父から教えられて必死に求道いたしました。父の一周忌までに開発さしていただきたいと努力いたしましたが間に合いませんでした。今は大安心の身にさしていただいたのは全く父のお蔭です。父の三年の法事は私の一生涯に再びきませんから全部私にさしてください。お前は臍繰り金を溜めていたのかい、いいえ持ってきた着物は全部質屋に売りました。

すぐに総代のところに行き、あの予算は中止だ、ご法事はやめますか、いや中止はせん、こんな訳だ、ご院家さん本当ですか、箪笥は空っぽだ、申訳がありません、坊守さんを裸体にして修繕してもらった本堂の中で、門徒がどうして呑気にお説教が聞かれましょうか、今晩他の総代を私の家に集めます、ご院家さんはきたらいけませんよ。総代を集めて、私は申訳のないことをした、坊守さんはこんなことをされている、私がこれだけ出すからあなたたちはこれだけ出しておくれ、さあ次の日から門徒を廻るのだ。質屋にはすぐに坊守さんの着物は一枚も売ることはならないと電話した、法事までには二倍以上のお金が

できて、今度(こんど)のご法礼(ほうれい)は全部残(ぜんぶのこ)るのですが、信仰(しんこう)の力(ちから)とは不思議(ふしぎ)なものですねと住職(じゅうしょく)が言(い)われた。